

陽だまり

6月23日

生徒指導通信No.8

初夏の風が心地よく、これから夏休みに向けて、川や海など水辺へ出かける機会が増える季節になります。国では毎年7月1日～7日を「河川水難事故防止週間」と定めて啓発を行っています。中学生の皆さんが安全に楽しく過ごせるよう、水辺の危険性と命を守るためのポイントをまとめました。ご家庭でもぜひ一緒にご確認ください。

1. 川の楽しさと、裏側に潜む「危険」

川は自然豊かで楽しい遊び場ですが、プールとは全く異なります。見た目は穏やかに見えても、一歩足を入ると急に深くなっていたり、流れが速くなっていたりする場所が数多くあります。中学生の水難事故は「泳いでいて溺れる」だけでなく、「友だちを助けようとして一緒に溺れる」「浅瀬だと思って油断して流される」といったケースが毎年後を絶ちません。

2. 川へ行くとき・遊ぶときの絶対ルール

子どもたち（友人同士）だけで川へ行かない、遊ばない

「少しだけ足をつけるだけだから」という油断が重大な事故につながります。必ず保護者や大人の人と一緒に計画を立てて出かけましょう。

ライフジャケットを必ず着用する

水に入る場合は、浅瀬であってもライフジャケット（救命胴衣）を正しく着用してください。万が一足がつかない場所に流されても、生存率が飛躍的に高まります。

気象情報と川の上流の天気 zu 注意する

自分がいる場所が晴れていても、川の上流で大雨が降ると、数十分のうちに急激に増水し、濁流に変わることがあります。天気予報を事前に確認し、怪しい雲が見えたり雨が降り始めたりしたら、すぐに川から離れましょう。

3. もしも危険な場面に遭遇したら

自分が流されてしまったら

「浮いて待て」流れに逆らって泳ごうとすると体力を消耗します。無理に泳がず、背浮き（仰向けに浮く姿勢）をして、あごを上げ、両手を広げて救助を待ちます。靴やリュックは浮力になることがあるため、無理に脱ごうとしないでください。

友だちが溺れているのを見つけたら

絶対に飛び込まない 助けようとして飛び込むのは最も危険です。大声で周囲の大人に助けを求め、すぐ

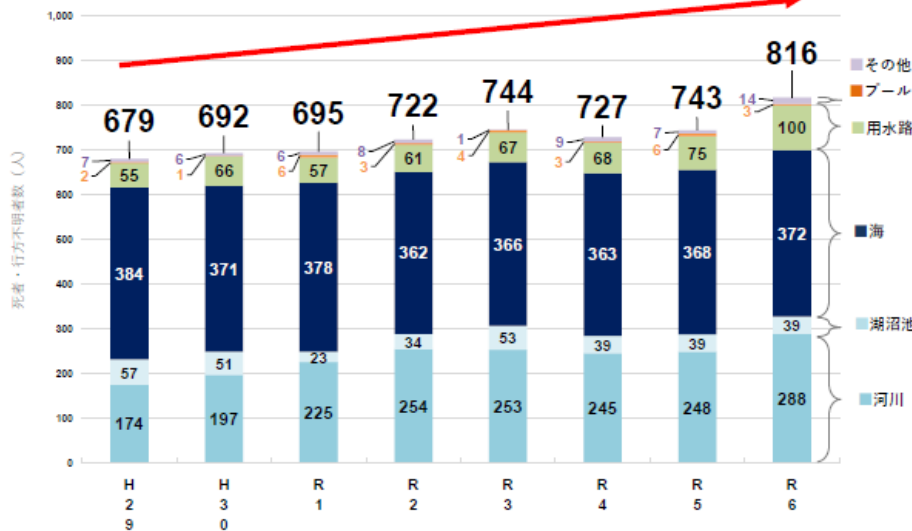
「119番（消防）」や「110番（警察）」に通報してください。近くにある浮きそうなもの（ペットボトルやクーラーボックス、ロープなど）を投げ入れて、掴まらせる工夫をしましょう。

【保護者の皆様へのお願い】

例年、ゴールデンウィーク明けから学校の夏休み期間にかけて、河川の利用者が増加し、水難事故の発生が大変懸念されます。中学生になると行動範囲が広がり、保護者の目の届かないところで水辺に近づくリスクが高まります。ご家庭におかれましても、「危険な場所には近づかない」「子どもたちだけで川遊びをしない」よう、繰り返し声かけとご指導をお願いいたします。

(全体)
水難事故による死者・行方不明者数は
近年増加傾向

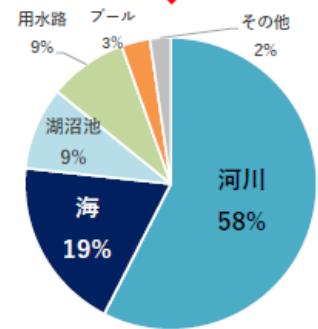
毎年600-900名程の人が犠牲となっており、
河川はその3-4割を占める等増加傾向



場所別の死者・行方不明者数(総数)の推移

警察庁資料より河川財団作成 (H15以降は「水難の概況」を参照)

(中学生以下)
子どもは「河川」での
水難事故が最多



中学生以下の子ども
場所別死者・行方不明者数
(H15-R6)

警察庁「水難の概況」より作成

こどもの河川水難事故防止に向けたポイント

こどもに知って欲しい3つのポイント (+引率者)

動画等でも紹介

河川水難事故防止に重要な、上位事項を整理



1

Good

Bad

誰かと一緒に行く

川には思わぬ危険が隠れています。
必ず複数人で行動しましょう。

2

Good

Bad

上流の天気も確認

今いる場所が晴れていても、
上流の雨で
水かさが増えることがあります。

3

Good

Bad

**大人も子どもも
ライフジャケット着用**

ライフジャケットは
「川のシートベルト」です。

4

Good

Bad

こどもから目を離さない

こどものすぐそばで
見守りましょう。

5

Good

Bad

大人は下流でスタンバイ

こどもより上流側にいると、
流されたときに
救助が間に合いません。

知識・技能

情報・場所

装備

知識・技能

知識・技能

大人・こども共通

引率の大人(教員・保護者等)